

2代目宣言

最初の出産を機に休職したとき、仕事が生きがいであることに気付いたという中野歯科医院の中野玲子院長。「復帰後は仕事に夢中で、子どもには寂しい思いをさせました」と話しますが、このとき生まれた娘さん、4歳下の息子さん（鶴見大学歯学部保存修復学講座臨床助手。大学で数年研究したいので帰ってくるのはまだまだ先と本人の弁）共々歯科の道を歩んでいるのですから、良いお手本になっていたに違いありません。今では長女の中野生和子先生は歯内療法の専門家となり、一緒に診療しています。

医療法人聖ぶどうの会 中野歯科医院

群馬県太田市成塚町 150-85

中野歯科医院は群馬県太田市の住宅街にあります。玲子院長の夫で内科医の中野正美・医療法人聖ぶどうの会理事長の実家が診療所を営んでおり、正美理事長がここを継ぐのに合わせて一家で東京から転居。1989年に中野歯科医院と中野医院を併設した施設をオープンしました。

玲子院長は開業当初から取り組む「無痛治療」と「予防」を中野歯科医院の特徴として挙げ、「3歳以下のお子さまや発達障害の患者さんも比較的多く、笑気吸入鎮静法などを駆使して痛くない歯科医療を追求しています。予防に関しては、東京女子医大名誉教授の河西一秀先生のもとで学んだノウハウを自分なりに発展させてきました。歯ブラシや歯みがき剤は歯科衛生士と面談しながら個別に選んでいただいています。近年は3DSによる除菌治療を取り入れるなど、確実性の高い予防プログラムを確立しつつあります」と説明します。

実はこの除菌治療は、玲子院長が学位を取得すべく2006年から籍を置いている鶴見大学歯学部口腔微生物学講座の前田信子教授の紹介で、武内博朗・武内歯科医院



2年前の改装で癒しの環境づくりをさらに追求。なかでも広く高級感のあるトイレは近所でも評判



歯科医師1人体制を長年続けてきた玲子院長にとってスタッフはとて心強い存在

中野歯科医院 院長 **中野 玲子**
娘の専門性を尊重し、私も娘から学びたいと思っています——母

中野歯科医院 歯科医師 **中野 生和子**
卒業後の勉強もずっと応援してくれていることに心から感謝しています——娘

「中野玲子・生和子先生から学ぶ
親子関係がうまくいく心得」

家では仕事の話せず、診療室では感情的な言葉を使わない

長から直接学びました。「私の歯科医人生は良い先生、患者さん、そして家族に支えられてきたのだと実感します」と玲子院長。学位取得を目指す理由は、「医学博士の夫へのライバル意識」と笑いますが、娘の生和子先生に言わせれば院長は元々相当の勉強家。「一緒に講演会やセミナーに参加することもあるのですが、そういうとき、母は講師の方に必ず質問します。幼いころから仕事と家事を両立させる姿を見てきて、子どもながらにすごいと思っていましたが、「学び続ける」ということに関してもかなり貪欲であることを最近になって知り、改めて母のパワーを感じています」と尊敬の眼差しで語ります。

そんな生和子先生が玲子院長のもとでの診療を始めたのは2011年4月のこと。明海大学歯学部を卒業後7年間、東京医科歯科大学歯髄生物学分野で研修医・専攻生、医員として常勤していましたが、4月から非常勤講師となり時間に余裕ができたことから、毎週日曜日に帰省し翌月曜日に中野歯科医院で診療することにしました。「専門の根管治療を中心に担当していますが、母が昔から取り組んでいる地域医療や、ボランティア活動も手伝いながら学んでいきたいと思っています。私がこれまでじっくり勉強できたのは両親のおかげです。これからは私が手伝えることで、少しでも楽してもらえたら」という言葉に感謝の気持ちがこもります。

玲子院長は1977年に鶴見大学歯学部を卒業後、東京都内の歯科医院に就職。結婚後も仕事を続けていましたが、生和子先生がお腹にいるときに体調を崩し、ドクターストップで79年から3年間休職しました。このときに芽生えた母親目線は、今ではとても役に立っているようですが、一方で「物足りなかったですね。早く仕事がしたいと強く思いました」と当時を振り返ります。そして復帰後は3年間の遅れを取り戻し、開業できる力をつけようと仕事に打ち込みました。そして、納富哲夫先生が主宰されていた霞ヶ関 Dentist of Postgraduate Dentistry course を1年半通って終了するなど開業準備にはずいぶん時間とお金をつぎ込みました。「熱を出している娘に1人で留守番させたこともありましたが」と院長はちょっぴり申し訳なさそうに打ち明けますが、「おかげで精神力がよくなりました」と生和子先生はあくまで肯定的。「わからないことはどんどん聞き、先生方や諸先輩にかわいがっていただいているのも、母の影響だと思っています」と微笑みます。

近年は歯科訪問診療にも取り組み、さらに忙しい日々を送る玲子院長ですが、「実は来年還暦。さすがに体がきつくなってきました」と肩をすくめず。「今後は娘の診療時間をもう少し増やしてもらおう予定です。将来的には、歯内療法に専門的に取り組む歯科医院として個性を打ち出していけたら」と、2代目に大きな期待を寄せつつ見守っています。